

# 4年目の“猪名川流域のアユの産卵場づくり”を実施

～川底をたがやして、アユが産卵できるようにしよう！～

～猪名川河川事務所～

神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)、猪名川水系漁業協同組合連合会の主催で、『2020猪名川流域のアユの産卵場づくり』を、**流域の市民団体、漁協、NPO団体及び一般募集した市民の皆さんの総勢69人で実施しました。**

皆さんの協力により、新型コロナウイルス対策として検温やアルコール消毒、マスク着用等をしっかり行うことで、4年目も体験会を開催することができました。今後、整備した産卵場で多くのアユが生まれることを期待しています。参加者の多くは、地元の尼崎市からでしたが、近隣の伊丹市や豊中市からも参加してくれました。

## 開催概要

- 日 時 : 令和2年11月15日(日) 10時00分～11時30分
- 場 所 : 兵庫県尼崎市田能 中園橋付近
- 参加人数 : 69人
- 内 容 : 産卵場づくり、河川内伐採木を使った工作、アユの試食、猪名川のアユと環境の話
- 主 催 : 神崎川水質汚濁対策連絡協議会 猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)、猪名川水系漁業協同組合連合会
- 協 力 : 流域ネット猪名川、自然と文化の森協会、NPO法人まいどいんあまがさき

## イベントの様子

快晴の秋空の下、アユの産卵場作り(耕うん)を開始しました。晩秋のこの次期、水温は20℃を下回り、冷たかったですが、風がなく陽射しが暖かかったので子どもたちも元気に参加してくれました。

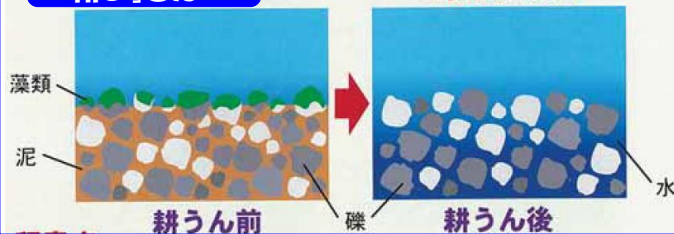
耕す場所では、ツルハシやスコップで上流側から川底をほぐし、続いて大きな石を取り除いていく、という流れで作業を進めました。昨年、一昨年からのリピーター参加もあり、慣れた手つきでドンドン耕してくれました。

産卵場づくりの後は、猪名川水系漁業協同組合連合会さんの提供による、一庫ダム上流にすむ陸封アユを食べながら、猪名川のアユと環境について学ぶとともに、流域ネット猪名川さんによる河川内伐採木を使った工作体験もでき、自然と触れ合い遊び学ぶ体験会になりました。



## 「耕し」とは？

### 河床耕うん



アユの産卵に適した環境として、  
 ・径が約5mm～3cmのきれいな礫が「浮き石状態」  
 ・礫に泥や藻類が付いていない  
 などがあります。

河床耕うんにより、アユが産卵しやすい河床環境を創出しています。

出典:アユの人工産卵床の作り方(水産庁)

## 参加者の声

『安全に子供が川に触れ合えてよかった』

『思ったより浅瀬で耕すことがわかって小さな子どもでも参加できるので良かった』

『小さな子どもと一緒にクラフトなどができ上の子とは別で楽しめた』

『いつも楽しく遊んでいる川で、アユが産卵することを知れて、この活動に参加出来たことが有意義だと思った』

## 【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課  
 〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111 (代)

